砂山のお地蔵さん

昭和五十九年十月五日号

鈴川、砂山の坂の途中の左側に小さなお堂があります。このお堂の中に、高さ五十センチメートルほどの石のお地蔵さんがおさまっています。このお地蔵さんは、かつては人を化かしたり、あばれ地蔵だという評判でしたが、その後、人の願いをよく聞いてくれるお地蔵さんとして地域の人たちに親しまれています。

人を化かす地蔵さん

昔々のある闇の晩。吉原湊へ着いた二人の船頭が、元吉原の宿場まで行こうとしましたが、道が暗くて困っていました。

すると前の方から紺がすりを着た小僧がやってきて「こっち、こっち」というので小僧のあとについて行きました。ところが小僧の姿はいつの間にか消えて、二人は葦の生えているドブの中をザブザブ歩いていました。よ

うやく気がついてドブの中からはい出した二人は、「あの小僧め、地蔵が化けてたに違いない。畜生め！」と悔しがりました。

こんな人を化かす話も伝えられているお地蔵さんですが、いつのころからか、このお地蔵さんは、人の願いをよく聞いてくれるお地蔵さんだというので参詣する人が多くなったということです。

いいなり地蔵さん

鈴木和嘉雄さん（砂山）

砂山に住む鈴木和嘉雄さんは、「この地蔵さんはね、人のいうことをよく聞いてくれるもんで『いいなり地蔵』と呼んでいるよ。毎月二十三日は地蔵さんのお祭りで、わしらが子供のころは露店が出て、大層にぎわったね。今は店はでないけんど、お供え物を上げたり、近所の年寄りが集まって世間話に花を咲かせたりしているね」と語ってくれました。

小さなお堂